



東校だより

7月号

令和4年6月30日
横浜市立東小学校
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>

魔の7歳

横浜市立東小学校
校長 保科 桂子

梅雨明けし、夏らしい日が続きます。感染症対策と併せて熱中症対策も大切になってきます。屋外では、距離をとり、会話がなければマスクをとってもよいことを指導しています。また暑い日の中休みにはクールダウンの時間も意識してとっています。この暑さの中、元気に過ごす子どもたちの姿に安心する日々です。ご家庭での日々の健康観察、体調管理、ありがとうございます。

コロナ禍のためこの2年間でできていなかった会議や集まりも、今年度は、感染症対策を講じながら、開催できつつあります。お会いして顔を見合わせて話し合いができることをとても有難く感じています。6月24日にスクールゾーン対策協議会も、開催することができました。

5月にNHKで「首都圏情報ネタドリ! 5月が危険!? どう守る 通学路の安全」という番組を見ました。登下校時の安全についての示唆に富んだ内容でした。

小学校低学年が交通事故に遭いやすく、番組では「魔の7歳」と言われていました。交通安全センターでの、小学校1年生を被験者とした実験を取り上げていました。低学年にはよくあることだとは思いましたが、前の人が横断歩道を渡っているとそれに続いて赤信号でも渡っていたり、横断歩道のないところを横断したり、左右も見ないで歩いていたりしました。低学年の行動の特徴として、①周りの人につられて行動してしまうこと、②経験値が少なく危険性を想像できないこと、が挙げられていました。(横浜市の交通事故の発生件数も、年齢別では1位7歳、2位8歳の順で多く、時間別では1位14時台、2位15時台の順が多い という統計があります)

家庭で気を付けることとして、①子どもと通学路を歩く ②守るべき約束をする ③「かもしれない」を大切にする ということをあげていました。4月には学校も家庭も気を付けていて、子どもたちも緊張していますが、5月になると、だんだん慣れてきて、気持ちが緩んでしまうということもありません。

また、自動車の走行速度と死亡リスクの関係について、自動車の速度が時速30kmを超えると、大きく死亡リスクが上昇することも紹介されていました。自動車を運転する人のモラルやマナーも欠かせないと思います。(これは大人の話ですね)

交通事故を回避するために、地域住民が、無理のない形で見守り活動に取り組んでいる例も紹介されました。東小学校の子どもたちの登下校も、多くの方に見守っていただいています。朝早くから通学路の見回りをしてくださっている地域の方や保護者の皆さん、PTA校外委員の皆さん、本当にありがとうございます。おかげさまで、こんなに交通量の多い街でありながら、安全に登下校することができています。学校でも、日ごろの交通安全指導、通学路の点検などを適切に行い、事故防止に取り組んでいきます。引き続きどうぞよろしくお願いたします。